

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第70号

[2015年2月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第70号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (28)

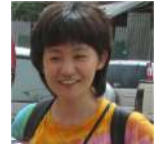
編集後記

次号の予定



メソトマンスリー

【メソト＝鈴木 みどり】



最近のメソット

皆様 こんにちは。

今月初めに日本に戻り、日本の冬の寒さを久しぶりに体験しました。ユニクロのコートと友人の温かさを実感、リフレッシュできました。結局、帰国中はのんびりして、以前から気になっていた歯科には行きそびれてしまいました。

そこで、タイに戻った後にやっと歯科を受診したので、今回は歯科について感じたことを書きたいと思います。

外国で2年近く生活していて時々困ることの一つが歯医者さん選びです。

一昨年5月、タイの学校に通っていた時に健康診断で虫歯を指摘されて、抜いたほうがいいとすすめられました。日本で治療を何度も受けたことのある歯ですが、それまで一度も抜いたほうがいいと言われたことはないし、自覚症状もない。念のため、クラスメートだった歯科医2人(タイ人とネパール人)に見てもらおうと、抜いたほうがいいと言われましたが、強くは勧められず、歯医者さんが苦手な私はそのままにしていました。

それから一年半後、以前治療したことのある歯の詰め物が取れてしまい、さらに以前指摘された歯が痛みだしたので、メソット市内のお勧めの歯医者さんをタイ人の知り合いに教えてもらいました。しかし、そこで治療してもらった人に話を聞くと、どうも満足いけならしく、別の先生に変えたがっていました。そこで、悩んでも時間が経つばかりなので、結局一番なじみのあるメータオ・クリニックの歯科を受診しました。

難民でも移民でもないのにごめんなさい、と思いつつ、患者登録の場所へ行くと、登録するのに身分証明は不要でわずか2分で終了。登録料の30THBは基本必要ですが、もしお金がなかったら払わなくても大丈夫、と言われました。職員でも払えない人もいますよ、と。続いて歯科に行くと、ちょうど患者さんがいなかったもので、すぐ受診できました。全体をチェックしてもらい、気になっていた歯は抜く必要がないと言われ安心しました。痛みの原因は歯の隙間に食べ物が挟まるからでした。そして歯の詰め物もすぐに入れてくれて、全部15分くらいで終了しました。



日本では一人の先生が何人もの患者さんを並行して治療することをよくみかけますが、タイの歯科では(タイ人の先生も)一人ずつ治療するので治療中に待たされることはほとんどないそうです。一方、虫歯がひどくなる前に抜歯を進められることもあり、国や先生によっても治療の方針は違うのだと思いました。

何はともあれ、これでもう食後すぐ爪楊枝を使う恥ずかしさも抜歯の不安も消えて、嬉しさがこみ上げました。そして、治療費無料とは本当にありがたいことだ、と特に大きな問題がなくても感じるのだから、移民や難民の患者さんはもっと実感するだろうと思いました。メータオ・クリニックに感謝の週末でした。



国内から

【東京＝前川】

みなさん、お久しぶりです。一昨年の夏まで、現地派遣員としてメータオ・クリニックで勤務していた前川です。現在は、日本事務局として活動を続けながら、沖縄の琉球大学大学院で国際地域保健学を学んでいます。

学部学生時代、あまり勉強には向いていないと自他共に認めていた自分が、大学に戻り、学んでいる今をととても不思議に感じています。修士課程では自分が知りたかったことを学ぶことができ、とても充実した毎日を送っています。

現地派遣員時代は、支援案を考えたり、研修を作ったり、時には講師役で指導にあたりたりと、臨床看護師としては未経験なことも多く、試行錯誤しながらの日々でした。そこでぶち当たった困難や分からなかったことを、学問として、改めて今学んでいます。

専門的に国際保健や地域保健が学べるだけでも楽しい毎日ですが、何よりの面白みは、実践を通じて学べるところにあります。研修構築を例にすると、教室で先生の講義を聞くだけでなく、実際に実施予定の研修を、先生の指導の下、私たちのアイデアを盛り込みながら作っていきます。その過程で研修の組み立て方やポイントを学んでいきます。実施段階では研修運営を学び、研修後には参加者のフォローアップ方法や研修自体の評価の仕方を学びます。実際に関わりながら肌で学んでいく、そんな学習スタイルが特徴です。

学びの場は、大学内、沖縄だけに留まらず、クラスメートはラオス、タイ、フィリピン、ケニアなど各国現地に入り、フィールドでも学んでいます。昨年夏、私もケニアに行き、学校保健プロジェクトに関わりました。タイの学校やメソトの移民学校で実施されている学校保健評価システムを、ケニアの学校でも実施しようと、導入を進めています。私は現地調整員補佐として、会議の調整やワークショップの開催などを行いました。時間通りに始まらない会議には慣れっこのですが、時には半日も開始が遅れることがあったり、やっと始まったと思ったら、思ってもなかった程の熱い議論が繰り広げられて圧倒されてしまったりと、アジアとはまた違う感覚の経験をしてきました。ほとんどの学校には水が通っていないため、プラスチックボトルを利用した手作りの手洗い装置を設置し、水を入れて使用しています。



トイレ横に設置された手作りの手洗い装置。ボトル下に差し込まれた棒を引き抜くとお水が出る仕組み。

メソトでも使えるかなと考えながら、こういった初めてのアイデアに触れることも楽しみのひとつです。3か月という短期派遣でしたが、国民性の違いや自分の中の課題、使えそうなアイデアなど、新たな発見が多くありました。これからもメータオでの経験を軸に、同じこと、異なるところ、考え方やアプローチ方法など、知識や技術の引き出しを一つずつ増やしていきたいと思っています。

もちろん、修士学生として研究も進めています。メーソットに暮らす人々の保健医療環境の改善につながる研究。こちらも研究だけに留めず、実践に生かせる答えが見つけれられるように、そう願って進めています。

私たちの教室は、JAMオフィスにもなっています。こちらの看板が目印。沖縄に来る機会があれば、ぜひご連絡を。JAM沖縄オフィスにもお立ち寄りくださいね。



ケニアにて。学校保健プロジェクト関係者と。

国際保健医療協力のなかで (28)

【東京＝小林 潤】



パリでの勉強会に参加してきた。私より10歳程度先輩のパリ大学の教授と夕食を共にする機会があった。ヨーロッパ共同体(EU)を作るのになぜ成功したのか聞いてみたが、「フランス人である前にヨーロッパ人だから」という言葉がすぐでできた。「フランスにいくと誰も英語をしゃべってくれない。」「フランス人は不親切だ。」こんなことを20年前にはよく聞いた。過去フランス領であったラオスで1990年代に、フランス人の医師達に何人もあった。しかしながら全く英語をしゃべってくれないこともあったし、「I do not speak English」と綺麗な英語で一瞥され会話にならないことも多々あり、あまりフランスは好きにはなれなかった。こんな閉鎖的フランスは現在では確実に変わっているのかもしれない。もちろん私は、フランス語は挨拶程度しかできないので、3日の滞在中、英語で話すしかない。大学でも、スーパーでも、カフェでも、レストランでも返事が英語で返してくれることが半数、おそらくこちらの知っていることは理解してもらっているけど返事はフランス語である場合が半数。おまけに誰も親切で気分もよくなった。フランスは市民の国だ。フランス革命以来、市民が国を造ってきているし、その精神が息づいている。EUを形成してヨーロッパを一つにしてきた



原動力の一つはフランスであることは間違いない。おそらくこれを動かしてきたのは一部の政治家だけではない。市民が「フランス人である前にヨーロッパ人」であるという精神を作り上げてきたのかと思った。

勉強会に参加してくれたイギリスの大学に留学している日本人学生さんが、「インターネットパスワードがパリ大学でも使えました！」と喜んでいて、教育の連携も進んでいる。EU内の多くの大学で単位互換性があることが多い。学生は自由に動いて、興味がある先生の講義を聞き単位を取得できるのだ。

先ほど、パリから半日飛行機によってバンコクで乗り継ぎタイ国のチェンマイについて。沖縄に青少年交流プログラムで招へいたチェンマイ大学の学生さんが迎えに来てくれた。タイ語と英語でしばし会話が弾んだ。チェンマイ大学でも学年の終わりは5月になって、これはASEAN（東南アジア共同体）で統一されて来ているのだそうだ。学生は域内で自由に動くようになる日も近いだろう。

「入学式に桜」は大好きである。学生でなくても、わくわくする。現在この習慣にとらわれず留学生の受け入れを進めるために、私の所属する大学で大学院の秋入学の準備を進めている。多くの外国は日本の秋が新学期になるからだ。中国、韓国も含めてアジア全体で学生や教官が自由に行き来するキャンパスをつくらないといけないと実感している。政治や伝統的産業ではグローバル化は難しいこともあるだろう。しかし、教育とくに最高学府の大学に日本人学生が大部分で日本語が殆どである現状では、「日本人である前にアジア人、地球人」だという感覚が本当に根づくことはないだろうから。

フランスにあってよかった。カフェで、美味しいスイーツを食し、注文ぐらいはフランス語でこなしたくなった。

編集後記

最近、自宅の引っ越しをしました。フローリングの上に万年床にすること数日。床と接したマットレスに黒カビが現れました。

そこで、お布団の除湿シートを求め、ネットでいろいろ下調べをしたところ、どうやら、値段と品質は比例するらしいとのこと。

しかし、あらゆるお店に問い合わせをするものの、除湿シート自体、お店に在庫がなくて、お取り寄せになってしまうお店が多い。「梅雨時の商品なんですよ」「今、シーズンじゃないからねえ」「こまめにふとんをあげて湿気を飛ばしていただかないと、カビますよ」と。

さらに私が欲しいと思った除湿シートは、メーカーでも欠品しているらしくて、お店でもネットでも、1か月待ち。そんな人気商品なら、ますます欲しいと思ってしまうのが人の心。ようやく1枚だけ在庫があるお店を見つけたので電車で買いに行きました。

マットレスも買い替えたし、除湿シートも1万円で奮発したけど、効果ありそうな感じがしません。布団がさらさらです。除湿シートの効果に甘んじることなく、週に数回は、布団をあげようと決意しました。



次号の予定

次号は、3月中～下旬ごろ配信の予定です。
ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスいただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会 Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛てEメール：support@japanmaetao.org

ホームページアドレス：www.japanmaetao.org

フェイスブック：[Japan Association for Mae Tao Clinic \(JAM\)](#) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

